



ESD 通信



海洋から環境を学ぼう

5年生や6年生は、海の町「気仙沼」という地域の特性から、環境問題を学習しました。世界中で問題視されている「地球温暖化」についても、自分事として授業を通して考えました。

5年生 海と生きる

5年生は、海と生きる気仙沼市は、森林も豊かであり、森林を大切にすることが、豊穡の海を持続させることにつながることを知り、松岩愛林公益会の方々からのサポートを受け、長の森に植林活動を行いました。この活動は、今年で2年目となります。子ども達が大人になった時にオオムラサキやカブトムシ、クワガタが集まる森をイメージして、エノキやブナなどの広葉樹を植林しました。

また、豊かな漁場「気仙沼」を知るために、メカジキ漁師さんの講話を聞いたり、魚市場見学、ワカメの種付け体験、石渡商店見学を実施したりと豊富な体験を行いました。また、「海洋教育サミットIN 東北」というオンライン交流会に参加し、東北に住む小中学校と、環境に関する考えを交流する学習も行いました。「海洋」という窓口を通して、環境を守る心や、産業の成り立ち、人の知恵や創造力についても触れる機会となりました。



根が張るように、苗を丁寧に扱おう



ワカメの種が落ちないようにロープに挟む



ホオジロザメのあごの骨は強靱だなあ

6年生 地球温暖化と海洋

地球温暖化という現代の大きな課題について学習をした6年生。小学校の学習では、4年生から、国語・算数・理科・社会の教科を通して、温暖化がもたらす環境の変化についての知識を学習してきました。6年生の総合学習では、海も温暖化の影響を受けるのか、それは、私たちの生活にとってどのような影響をもたらすのかということ、水産試験場や自然環境活用センターの専門家との対話を通し、じっくりと学習しました。水揚げされる魚種に変化が見られ、南洋で取れるはずの伊勢エビやリュウグウノツカイが水揚げされていること、また反対にサンマの水揚げが急激に落ち込んでいること、温暖化による海洋環境の変化など考えました。

学習は3学期へと続きます。

